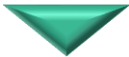

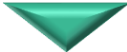

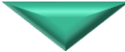





区政会議における主な意見の進捗状況について

No.	意見	対応や考え方等	担当
1	<p>(R6第1回全体会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民アンケートだけによって成果を測定することには疑問が残る。 ・また様々な視点から成果を測定しているのであれば、それらの測定結果を踏まえた成果を漏れなく運営方針に記載したうえで、区民アンケート結果はその裏付けとなるような記載内容にしてはどうか。 	<p>(R6第2回全体会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策や事務事業を評価するためには、定量的な評価は不可欠との考えから、これまでからアンケート結果を活用していますが、総合的に評価する際には、当該結果以外の定性的な評価も考慮することが重要と考えており、運営方針においてもそのような総合的な評価結果を記載してきております。 ・今般、令和7年2月に本市運営方針の策定・評価を所管する市政改革室から「区民アンケート結果を運営方針の目標達成の判断材料に使用することは、区民の代表性を有しているかのような誤解を招く恐れがあり、運営方針のアウトカム（中期の成果指標）測定に用いることは望ましくない」との見解が示されました。 ・当該見解を踏まえ、令和8年度以降からは成果指標としては区民アンケート結果に代わるものを設定することといたしますが、適切な総合評価につなげていけるよう<u>区民アンケート結果についても引き続きの活用を検討を進めていきます。</u> ・また、各種事業を実施する際には、当該事業の性質等に応じた手法により成果を測定していますが、それらを漏れなく運営方針に記載することで情報量が多くなり、区民等にとって分かりにくくなることを見込まれ、一定の簡素化も必要と考えています。そのため、成果指標に設定する指標数については、これまでどおり主要なものを1つから複数程度設定することが望ましいと考えています。 <p style="text-align: center;"></p> <p>(R7年度末時点進捗状況)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>令和7年度区政会議でご意見をいただきながら「令和8年度鶴見区運営方針(案)」を策定し、新たな成果指標を設定した上で、別冊資料として区民アンケート結果の経年変化を提示しました。</p> </div>	総務課 (政策推進)

No.	意見	対応や考え方等	担当
2	<p>(R6第1回全体会)</p> <p>・ SNSの活用について、インスタグラムの活用は困難であり、大阪市LINE公式アカウントの活用に注力することのことだが、SNSの各種媒体には一長一短があり、インスタグラムが決定的に不適であるとは思えない。若年層に支持されているインスタグラムの活用を始めることには一定の意義があるのではないか。</p>	<p>(R6第2回全体会)</p> <p>・ ご指摘のとおり、インスタグラムの活用を始めることについては、一定の意義があるものと考えます。令和6年度区政会議（第1回全体会）では、当区としてインスタグラムを活用しない理由について、次のとおりお示しました。</p> <p>【以下抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インスタグラムはビジュアル面に特化したSNSであり、写真・画像や動画をメインとした視覚的な情報発信ができるのが強みです。 ・ 区役所からの情報発信に際しての利用では、チラシやお知らせ用に作成した画像の投稿、または写真・動画を用いた催しの周知報告といった場面での活用が考えられ、これまでもその利用を検討しましたが、次の理由で見送っています。 ・ 区役所の発信する情報は、その要件はじめ詳細な情報をリンク情報として併せて掲載するところですが、インスタグラムは、Webページへのリンク機能が限定的であることから、投稿を入り口として区役所ホームページを参照いただきたい場合などは、簡単な操作で情報を取得できないことがデメリットとして挙げられます。 ・ その他、インスタグラムでは独自の解析・分類により利用者の関心が高い情報を学習し、そうした情報を含む投稿を上位におすすめ表示する機能も特長であることから、発信する情報を十分検討し、投稿する時間帯や頻度にも配慮したうえで、他の情報に埋没しないような工夫も必要であり、一般的な広範囲の住民を対象としている以上、その対応は困難なところです。 ・ 区の広報として、必要なときに必要な情報をわかりやすく区民の皆様を提供することを目的としていますが、こうした課題があることから、インスタグラムを活用した情報発信は現時点では目的にそぐわないものと考えています。 <p>・ <u>現時点ではインスタグラムの活用を見送っていますが、今後、インスタグラムに新しい機能が実装され、区政情報に関する区民等のニーズと合致するようであれば、活用を検討していきます。</u></p> <p style="text-align: center;"></p> <p>(R7年度末時点進捗状況)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「大阪市DX戦略」に沿いXや大阪市LINE公式アカウント（令和5年10月開設）からの発信に注力しており、登録者数の目標達成に向けて進めています。 今後のSNSでの発信については一人ひとりが最適な情報、サービスを受けられるよう効果的な発信をめざします。</p> </div>	<p>総務課 (政策推進)</p>

No.	意見	対応や考え方等	担当
3	<p>(R6第2回地域保健福祉部会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堺市では、行方不明となった認知症高齢者等に関して、アプリを活用して地域等が捜索に協力するといった取組を開始した。地域と専門職のネットワークづくりの一つの事例として、情報提供させていただくが、他都市などでの有用な事業について、鶴見区としても実現可能なものはできるだけ実現していただきたい。 	<p>(R6第2回全体会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市では「地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業」として、認知症高齢者に限らず、一定要件を満たした要援護者に対して、地域などへの個人情報の提供について同意を得たうえで、区が認定した地域団体等へ要援護者名簿を提供するなどし、地域団体が行う見守り活動への支援を行っています。 ・また、それに加えて、本人やその家族の方からの事前登録により、認知症高齢者等が行方不明になった際に事故発生の防止や早期発見ができるよう、地域などの協力者にメール等の配信を行っています。 ・<u>認知症高齢者をはじめとする要援護者に対する見守りの仕組みについては、今後、ますますその必要性が高まってくることから、ご紹介いただいた他都市の取組やICTを活用した民間団体等との連携など、新たな見守りの仕組みについても、その有効性を検討していきます。</u> <p style="text-align: center;"></p> <p>(R7年度末時点進捗状況)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>委員よりご紹介いただいた取組み（「みまもりあい」アプリ）をはじめとした、見守りの取組状況については、市で情報収集され、各区に共有されているところです。現在4区でアプリの周知等にかかる連携協定を行っている状況はあるものの、有用な実績等の状況は確認できておらず、引き続き取組状況を注視していく必要があると考えています。</p> </div>	保健福祉課 (高齢者支援)
4	<p>(R6第2回地域保健福祉部会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年層へ区政情報を届けるためにSNSを活用することが広報活動の課題である。それらを活用することで、より多くの区民とつながり、アンケートなどで貴重な意見を集めることが可能となる。 ・特に、広報紙にQRコードを掲載し、簡単にアンケートに答えられる仕組みを構築することが重要であり、これにより、区民全員が区政モニターのような役割を果たすことが今後期待される。 	<p>(R6第2回全体会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>区広報紙にQRコードなど二次元コードを掲載したアンケートについては、簡便で有効と考えられますので、まずは他市町村等の事例を参考にしうえて、その仕組みを研究していきます。</u> <p style="text-align: center;"></p> <p>(R7年度末時点進捗状況)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「広報つるみ」令和7年8月号より、紙面に二次元コードを掲載して読者アンケートを実施しています。現状としては月30件程度ではありますが、「日本一見やすい」から「オレンジ色の背景に白い文字は見にくい」「広報紙が届かない」まで、「広報つるみ」について貴重なご意見をいただいています。</p> </div>	総務課 (政策推進)

No.	意見	対応や考え方等	担当
5	<p>(R6第2回全体会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民アンケートで区民の実態を把握できるのかと疑問視してきたが、取り組む時間や項目も多く、参加者アンケートに比べれば余程信憑性がある。 ・参加者アンケートを成果指標として用いるのであれば、参加者アンケートで区民の実態を把握できると証明する必要があると思うが、どのように考えているのか。 	<p>(R7第1回全体会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者アンケートにより全区民の意識を推測することはできませんが、事業の対象である参加者のご意見や評価を把握することは、事業の改善につながる等、一定の意義があると考えます。 ・今後も運営方針（鶴見区独自様式）には、参考として区民アンケートの結果を併記していく予定ですが、参加者アンケートと区民アンケートの結果が整合的であれば、参加者アンケートが区民全体の傾向の裏付けになるとも考えます。 ・<u>成果指標の代替案については、今後の区政会議で皆様のご意見を伺いながら検討してまいります。</u> <p style="text-align: center;"></p> <p>(R7年度末時点進捗状況)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>令和7年度区政会議でご意見をいただきながら「令和8年度鶴見区運営方針(案)」を策定し、代替となる新たな成果指標を設定しました。</p> </div>	総務課 (政策推進)
6	<p>(R6第2回全体会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSはそれぞれに特色があり、若者にはInstagramが支持されている事実がある。若者向けの発信であればInstagramは有効だと思うので、まずやってみてほしい。 	<p>(R7第1回全体会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Instagramは、動画・画像をメインとしたビジュアル面に特化したSNSであると認識しております。また、Instagram独自の解析により利用者の関心が高い情報がおすすめ表示される機能のため区の広報として「必要なときに必要な情報をわかりやすく」区民の皆様を提供するという目的にそぐわないものと現段階では考えております。<u>「大阪市DX戦略」においても、SNSの活用はXと大阪市LINE公式アカウントとしております。</u> ・<u>事業対象を絞ればInstagramが有効なツールであることは認識しており、今後検討の余地はありますが、現在は大阪市LINE公式アカウントからの発信に注力したいと考えております。</u> <p style="text-align: center;"></p> <p>(R7年度末時点進捗状況)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「大阪市DX戦略」に沿ってXや大阪市LINE公式アカウント（令和5年10月開設）からの発信に注力しており、登録者数の目標達成に向けて進めています。 今後のSNSでの発信については一人ひとりが最適な情報、サービスを受けられるよう効果的な発信をめざします。（再掲）</p> </div>	総務課 (政策推進)

No.	意見	対応や考え方等	担当
7	<p>(R7第1回くらし安全部会)</p> <p>・成果指標「<u>区民アンケートで『区で実施している防犯事業が鶴見区の犯罪抑止につながっている』と回答した区民の割合</u>」と犯罪発生件数には関連がないと思われるので、前者は成果指標として適切ではないのでは。</p>	<p>(R7第1回全体会)</p> <p>・犯罪発生防止に向けては、警察による取り締まりなどによる対症的な対応及びその波及効果のほか、行政含め社会全体で取り組む必要があり、その一環として本市や当区においても防犯事業を実施しています。そのための成果指標として、該当の区民アンケート結果を用いていましたが、<u>今般、区民アンケートの結果を成果指標として用いないとする本市方針のもと、別指標に変更することを検討しています。</u></p> <p style="text-align: center;"></p> <p>(R7年度末時点進捗状況)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「令和8年度鶴見区運営方針(案)」14頁に、新しい成果指標として「防犯出前講座実施回数」「特殊詐欺防止啓発に係る各種キャンペーン等参加者アンケートで『特殊詐欺防止に役立ったと認識した』と回答した割合」を設定しています。</p> </div>	市民協働課 (市民協働)
8	<p>(R7第1回くらし安全部会)</p> <p>・マナーアップキャンペーンについてであれば、区民アンケートに「<u>あなたはヘルメットを着用していますか</u>」、「<u>信号を守っていますか</u>」といった区民の意識の変化がわかるようなアンケート項目を設け、指標に設定してほしい。</p>	<p>(R7第1回全体会)</p> <p>・<u>令和8年度の運営方針から本市の方針により成果指標に区民アンケートの結果を用いることができなくなり、他のアンケートを取ることが難しい場合は取組みの実施回数など別の指標を検討していくことになります。</u></p> <p>・なお、区民アンケート結果も自己評価の際の参考といたしますので、アンケート実施の際にはいただいた意見を参考に工夫してまいりたいと考えております。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>(R7年度末時点進捗状況)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「令和8年度鶴見区運営方針(案)」15頁に、自転車マナーアップキャンペーン等の交通安全対策の成果指標として「交通事故死傷者数における自転車事故の割合」「自転車事故死傷者数」を設定しています。</p> <p>区民アンケートの回収率を上げて調査の精度を保つためには設問数を絞る必要があるため、「令和7年度鶴見区民アンケート」の設問には「自転車乗車時にヘルメットを着用しているか」のみを新たに追加しました。</p> <p>調査結果(※)としては、約7割が「着用していない」(409件)、約2割が「自転車に乗らない」(121件)との回答であり、肯定的回答は「着用することがある」(33件)「常に着用している」(14件)を合わせて1割弱となっています。</p> <p style="text-align: right;">※R8.3.10時点の速報値</p> </div>	総務課 (政策推進) 市民協働課 (市民協働)